

あやめのそちよりひすりくすゆのへるありめねのくすりひと  
すくひめらねうくのつみをおなもふとあよーむべー。



あんやくせりあよぺてろざいりのあ

きりをとのあーやべてろ、ちあるかみのあ  
トめありくすりふことよりみくみのきよめをゆう  
りをあくぐふことと魚をきりをとのちとそくぐふことよえと  
あねうるゆの、すあるもちほんせ、せうてあ、かりばざきあ、あーや、  
びてにあよぢりてやどれるゆのよみをねうる。ねうそくらめぐ  
ひとおざやうのあらぢとよあきんことを。  
きりれとのきと魚をきりをとのちあるかみんわむづきあり。  
ゆねのそのあうきあねまよあまぐかとわうびることけぐら  
ことあるねとうゆることあきゆとくねじよえさせんとと  
魚をきりをとのちよりよみぐへりーことよよりこれとせーと  
あトくようあねさせりけるのぞみをえせーめくあくべー。そ  
のとくのすゑのよよあじをとよやうそあをりくるすくひのとき  
まであねうよよけてかみのちうじよあむじるゝとくうのあ

ちのくめよてんよとくをへる。6 これよおいてあるぢよろ  
うびしき めよおいてねりくる やろぶ べ手 きえ よりも うりと  
あるぢの あらううの こくろみん 無をきりをの あとされ ま  
そんと まわされと さうふと うのと手を うなよひとん くめよ  
7 あるぢと いは 無をとくの あひだ やせ ことと え本ば もうもうの  
こくろみよ ありて めあーむ あり。8 あるぢと 無をと 三ー こと  
あげねども われと ありせり、のあも 三本と くじあ あるぢと あん  
トと うひ ぐまき ある さうふの きらぐる ようそびを ゆりて その  
9 し、 わの あるぢの あらううの きらぐる ようそびを おけん  
すくひを うべー。10 あるぢと くめうむる とこうのめぐみを おけん  
11 する おけん くめう その すくひの ことと おとじ さげねり。  
12 きりをとの みる 実 われの うちよ ありて きりをとの うくる  
くめし三と のちよ うる とこうの きらふとと あとじとめ あらーじ  
13 いりうあるもの さー あさり うねの と手を さー うねを うげ  
ねくる あり。14 おけん くめう おめーと うりをりて、その つと

めをあすれ おのれの くめよ あくす、あるぢの くめ ある ことと  
あむり。これでん おり おくじれふる きよきよ みくよよ ありて、さり  
14 その おとづれを つまへー ものと あるぢとよ つけー とこうの こと  
あり。これとの ことと てんの つまひ まちゅ うげめることと あります。  
15 ここの ゆゑよ あるぢと こくろの こくよ おびーと つまへー、わ  
魚を まきをの あとそれの とき あるぢとよ くダー くまふと  
16 うのめぐみと あらまくの くめよ。14 あるぢと くめううの あどもの  
ごとくあれ、むうー あるぢと うとざると きよ おとづれひ まく うの  
17 うみよ あとふこと あります。15 うど あるぢとを めー うあふ ゆの  
きよ うめー ごとく あるぢとよ すぐふの おとあひよ ねりと きあうれ  
16 そん きれき あけねば あるぢとよ きよ うる べーとせり うよ ある  
うれさり。17 ゆー ひとと へがつる こと あく おとあふと うるよ ある  
ぐあて おのれの おとを あるぢと ものと あるぢと おびあだ あるぢ  
トゲ よよ やどれる と手を おそれよ ねりと おくる べー。18 あるぢ  
トゲ せんぞ あり つまむり うる うめー うめー おとあひの うち あり

あぐあひをそへりきんぎるの どとき わうびる もれよ よみよ あと  
年、日きをあら おと あま あもひのとの どとき せりせの うのと  
ちよ よみよと あらがひと ある。<sup>20</sup> われい よの もじめの さきよ さざめ  
とれそ やれを あより とくさぐへとせ <sup>21</sup> わく これよ さくえを うおふ  
うる かみと やれよ ありそ あらする もの ある あらがひの さめよ  
この すゑの ときよ あらもれ くすひー あり。ゆゑよ あらがひの  
あらうと のぞみへ かみよ ある あり。<sup>22</sup> あらがひと きやうざりの  
ぎせん あき ありそ おこるよ やうよ あらとよ あらがひそ くす  
ひを きよめ くねば きよき こうろ おり あひくさひよ あくく あ  
せよ。<sup>23</sup> あらがひと げ あらくよ うあれへ わうびる さめよ よみよ  
あとす、わうびる こと あまの さね すあそち かみの ひきそ あぐ  
ゆる と あもの こと によ ある あり。<sup>24</sup> そい すべそ ふくらひ くみの  
ごとく、その さうえゆ 三すくみの まみの どとく。くまく やるも  
あり、もあゆ ちる あり。<sup>25</sup> されど まみの こと まく よく あぐトゆ  
れ あり。これ あらがひよ の び づくへと こと ば あり。

<sup>2</sup> ゆゑよ あらがひと まみの めぐと ある ことを あぢそひ うね  
そ の そへりと すへ <sup>3</sup> り あう おれぐる を さあおの どとく そへくの  
すへりと うふよ いはくと めん さめ あり。<sup>4</sup> あらがひと、ひとよ  
りー ある そ の まみよ まみり、 ましげくと ゆりける りー の どとく  
うそへれて まみの みやと あれり。これ あそ まきを とよ よりそ  
まみよ ゆうと まみと とくちの まみの りけふくと ましげくの まみ  
まみよ あめされり、 まよ、 これ えとと まくと とめる りー の まみ  
おめりーを およんよ ねく、 これ あらする もの そくらしめと  
れ べーと。 7 この ゆゑよ やれい あらする あらがひと まみと  
まのと あり、 あらがひする もの まへりくと まくと  
りくの まみの めーと いーと あり <sup>8</sup> あく つまうけりー、 まみ

ぐるのとあるあり。かれどみことどもよおさうとせざるはありて  
つおげまくらり、これゆれじがあらうトメさざめられーとそろあり。  
○されどあんぢとへえとむれくるあんーゆ、ゆうあるきりーの  
あらゆ、きみきくあびと、あゆくねするたとあればあんぢとを  
くじきよりめーひづーとそのあーぎあるひうりよいれくる  
もの、あらうをあとをすべきあり。<sup>10</sup> あんぢとへゆとたまよ  
あくきりしうだゆのすれかみのたとあり。あんぢとへめぐみを  
えきりーうだゆのすれかみをえきり。<sup>11</sup> りくくーせとゆふ、やど  
れるものさびととのごとくものあるあんぢとへられすとめん、  
くあーひよさうじかとくうのあくさりのすとをされ。  
<sup>12</sup> あくあんぢとことくあびとのうちはありてさびーきねとあひを  
あすべ。これゆれじがあんぢとのよきねとあひをみてかみの  
りふとくうのことよつきあんぢとのよきねとあひをみてあり。  
ゆくらとくあふのひよかれをさくびすくよのくじえくめあり。  
<sup>13</sup> あんぢとすべとひとのけんかよよりてうのるとくうのもの

すあるちのまよあるゆう、<sup>14</sup> あらひわーきをあすゆのをぢり  
あすゆをあすゆのとわゆるさめよゆうよりつうをきれくう  
つうをじゆよまよのまよふくすべ。<sup>15</sup> そんあんぢとせふを  
おこなふて、ちゑあまひとのおうらあることをとふもくらかみ  
のみくまうあればあり。<sup>16</sup> あんぢとあゆうをうよとりへどもその  
あゆうをあーきことをゆくすとくうのゆれとあさすーとかみの  
あひ、きみうざりをありー、かみをおそれ、ゆうをくみとめ。  
<sup>18</sup> あゆびじゆよ、あんぢとおそれをおひとあひとよあひすべ。  
かみよきゆくねとあーきゆのよおけるのとあくす、きびーき  
ゆのゆのあくあらり。<sup>19</sup> そんひととよしらんしゆよおりとくみよ  
あらゲふゆめよあぎのくみーとをうけてゆあーきとくみーのび  
あばられわむべきのことあればあり。<sup>20</sup> あんぢとあやまちのくみ  
ようよくとくれをみのぶとあんのわまれあくらや。されど  
せふをおこなふとそれくめよくみーとうくるとくみー

○一  
のびあべこれかみよ和めにことあり。<sup>21</sup> あるぢうぐめーを  
ゆかむりへんこのさめあり。そんきり歩きもあらぢとのさめよ  
くさーみをうけとあるぢうぐそのあとよあらぐふやうよひあぐ  
くさーみをうけとあるぢうぐそのあとよあらぐふやうよひあぐ  
くさーみをうけとあるぢうぐあり。<sup>22</sup> めれんつみとをうさす、りうをりゆ  
くさーみをうけとあるぢうぐあり。<sup>23</sup> あるぞーとるくとせんそーりとゆくさす、  
そのくちよそくす。 あるぞーとるくとせんそーりとゆくさす、  
くさーめとくすとせんせびやうすことをりをゆくと、くさー草を  
も内そさむくゆのよされとありせり。<sup>24</sup> めれん已れとうづみよ  
あーとふざーきよりけるやうきのうくよめうりそ已れうの  
つみをねのねのまよねへり。めねのきよよよりとあるぢのりゆ  
されうり。<sup>25</sup> あるぢうぐもとゆうじのどとくあるぢーゆのあり  
しげりあれあるぢうのくさーひのびくーゆふとくよゆくれり。  
**第三章** ゆくのどとく、つゆぢゆよ、あるぢうぐゆのれのゆれとよ  
ふくすべ。これみことをよあらぐをぎるゆれとあるゆ。つゆの  
おをれとぢりゆあるゆくあめをよみことをよよくす、つゆの  
おをれとよくあらぐをえくめあり。あるぢうぐのゆき

りりやみのけをくふ。まんじをめけ、またまゆれをまゆうじとま  
すがもあらわせとめざりとあきやまへて、こゑのめぐれするひと  
りとせよ。されかみのあくよねりそりうけをまかどきゆれあり。  
そひもう一かみよりさのまゆるかよせをなあらむねのれの  
れのとよあくそくのととくねのれをめざりむねばあり。  
あらぢトせんをねとあらてねをもむうることあくべのれの  
あらぢトさり。7をのとどよ、あらぢのりのりをまゆるけ  
とれぬやうあらぢとめうどくまをゆりそつまとあらぢりのれを  
うやまふことよなまうつまのととくあるとゆよりのらのめう  
きをつぐゆめとどくよせよ。

8をそりよのせえ、あらぢトミあこゑうとねあドクー、ねゆひ  
りよけ、9あくそくのとあくよむくひ、そりりとありて

○一ペルセ ダルミヤウ 3

もうゆることあくやくのをさりもひとりのれ・それあんぢとぢ  
 さりもひをつぐやうよめーをゆむりへれこれをあすとめあねば  
 あり。10 りのやうをあり一 やう まきひを さんと わにする ものへ  
 そのあくとあくありひきとめそのうちびりをりつもりの ことを  
 ありとどむべ。11 あしやを ませて あきと ねどあひ、ねだやうを  
 ゆとめて その あとよ おひくけよ。12 そん きみのめへ うだーき  
 ゆのを やくりと、その さんら めねのねぐふと ころよ めうけ、  
 きみのめうひ あーきを ねどあひ ゆのよ もうくべあり。13 あんぢと  
 ゆーねのーんを ゆりそせんを ねどあひを されり あんぢとそそ  
 あもあや。14 あうりと りくどゆ あんぢと うだーき ことの まめよ  
 くらーみを うくる こと あんぢ さのをひ あり。ひとの おどーを  
 おなる こと あく あく うらうゆる あうれ。15 うーと あんぢと こく  
 うの うじよ きりあを きみとーと あぐめよ、やくあんぢとのうち  
 あるの ぞみの だけを とく ゆのよひ あうじと おそれを ゆりそ  
 こくへを あす やう つねよ まうじと せるべ。16 あく うまわる

ーんを うあらべー、さねば あんぢとを うーりて、あーきと おどあふ  
 ゆのと うひと びと、あんぢと うきりあを はありて あす ところの  
 よき おどあひと ざんけん することを うぐる あとん。17 ゆー よき  
 おどあひの まめよ うだーみを うくる こと かみの ゆねあとべ あーき  
 18 ありあと あきれとを かみよ つれ ゆうふと そだーき ゆの うだー  
 ううぐる ゆのよ めそりと ひと うび つみの まめよ うだーみを うけ  
 あく うだー ううぐれ うねど ゆ あくよ おりと うだー うあぐり。  
 あち ゆうー せあ の こうもと あねを うあらる あひど かみの ゆの  
 ゆのべ うあぐり。その あねよ おりと うだー うあらる あひど かみの ゆの  
 そち あん ういよ おりと うだー うあれ うだー。21 うねよ あうる ところの  
 あうめ あうめ きりまとの ゆみぐへりよ あゆて つまよ あんぢとを  
 うくふ。あうめ あうめ あくうりの けぐれを うる ゆれよ あとす、かみの

あくは ゆき やかしの ゆとむる ところを あともす ゆれあり。  
<sup>22</sup> あせり すぐま てんよ のがり かみの みぎよ ありて つらひとも、  
 けふる、つらさども まもその あくよ あくせりる。

## 第四章

きりを すべよ かくよりよ 「それとの さめよ」 さくよりを  
 うけられば あんぢとゆ その のち あくよりの のこれる ときと あく  
 けふの よくよ かくよ かみの むねよ おりて うす やう その こく  
 うを あうひとして きよ。 そん あくよりよ うちと うけらる  
 ゆわんつと あり やめば あり。 「されじ」 りんじん、 よく、 さけよ  
 より、 あきと、 さくより、 さくぞうを うきよ あくよびきの ことを  
 ねどあひり じふの このも とくよ あくより うす ひれ  
 すくよ うれり。 「あんぢと わねひと とくよ あくよりの きをもと  
 おひもとめきよ より やれと これを あやーと あんぢとを そく  
 る。 めれんりける ものと あくよる ものを させうる とする ものよ  
 ねのねの ことと のげん。 「そん ゆゑよ さりもの おとづれ  
 あくよる もの あくよりの ぐれり。 これ あくよりよ おとづれ

あくけふのことよ あくよりて させうるよと うくより うくより  
 かみのことよ あくよりて うくより うくより

「そねだる あくの そりへ ちうきよ あり、 ゆゑよ こくよと さ

うより めを さよーと いのれよ。 「ゆりとゆ おもする ところへ、  
 あくより あく あくす べき こと あり。 そん あく おあくの  
 つみを おあく べ あり。 「あんぢと ねーむこと あく あくより あく  
 も あせ。 10 かみの おあひ あるめ ぐみを つらさざる よき つらさ  
 ごとくよ おのの その うくる とくろの まおむけよ あくより うくよ  
 あひ わどと す こと せよ。 11 あく もの あく かみの みこと と みの  
 ごとくよ みされ。 つらゆる ゆの あく かみの まおむ とくろの  
 ちうと と もりて つらゆる ゆ ごとくせよ。 されば かみ すべ その  
 ごとく つま おも さりを とよ ありと さうえを うけん。 さうえと  
 あくよ おも おもだら いの みれよ きせん。 あめん。

12 あくする とくよ、 あんぢと うくよ うくよ うくよ  
 うちよ おこる とくろの ゆよ さくよ うくよ うくよ あやーき

ことありとおもひてこれをあめりけあられ。 <sup>13</sup> めんのくさりそ  
とのくらしもあぐらるわどあうそべ。これそのさうそめのあと  
をもととがよあんぢとゆようそびおどることをえんさめあり。  
<sup>14</sup> あんぢト ゆーきり生のあのさめよそーれあはまのち  
あり。それきりうう「とちうト」あるかみのみくはあんぢとの  
うへよとどあればあり。 <sup>15</sup> あんぢとのうちくねもひとぢう、  
ぬすびと、あんぢんあー生をおとあるもの、あらひくさるの  
ことよきちりるものとありそくらしもとうくらうあられ。 <sup>16</sup> され  
どきりすらやんさくよよりそくらしもとうけあはもけること  
ありれ、ゆくのそこのあのさあみかみをあがめよ。 <sup>17</sup> それかみの  
ゆへよりもとおなじかみのさりそひのねとづれよあくびもざる  
きれじよりもとおなじかみのさりそひのねとづれよあくびもざる  
ものしをきりいりうどあんぢな。 <sup>18</sup> ゆーきどしきものやうやくよ  
すくもるもこととえだあんぢんあきゆのとつみびといりじくよ  
あともれんや。 <sup>19</sup> そのゆゑよかみのむねよあくびもとくらしも

ううるものいよ生をねとあらそおのれのさすへひをあふせば  
のさうがいへやまちすべ。

### 第五章

きり生とのくらしものあふうくらん ゆうあととれんと  
するさうそよあぐらるものあるこれとーありあんぢとのうちの  
とーありどあよすく。あんぢとのうちよあるかみのゆうトの  
われをゆく。「これをゆくとくすくよ」よがあくせすとかみよ  
あくびよろくびとゆいてせよ、あつゆくまくよよとすらの  
みてこれをせよ。ゆうあんぢトヨリきくまくねくものしある  
とあとす、ふくむれのではふとあれ。・さうべゆうトうひの  
をきのあととれんとがよあんぢトおとくらせるさうそめのゆ  
ゆりをうけん。

さううるものよ、あんぢトゆとーありよふくし、ゆうあんぢト  
まああひさうびよあくしてけんをねときよ。それかみにあくら  
ゆのとこをみてへりくざるものよめぐみをくまくべあり。この  
のゑよかととがよおあびとあんぢとをあげくまくやうそめつう

りき ある ての あくよ へりくられ。 すばを あんぢうの きげくふ  
とくろひ めれよ ゆだねよ。 そん めれ あんぢうを めくりと さゆんべ  
あり。 8 あんぢう つましと めりめを さかーをる べし。 あんぢうの  
てき ある ざんま わゆる あそ の ごとく くじゅ べき ゆれを まくとそ  
あそりを あそく。 9 あんぢう あんぢうを めくらへと こねを あせば。  
すま ある あんぢうの きやうぐの ゆひとく この くまーみを あと  
ぐる ことと あんぢう ある。 10 れぐもくら あんぢうを まくとそ  
ある めぎり あき まくとそ あね まくら すべの めぐみのかと ある  
ちとげ あを くの あひ ぐくの うけ その ちよ あんぢうを  
まくとそ、 めくま、 つまき ゆのと あーと やす おせ さあ そん ことと  
11 まくとそ ちうとく ふく ざんぢう めれよ きせん。 あめん。

12 あんぢう も ちうき ある きやうぐのと こぐ オキル さくろ  
ある あはよ まくー みくろき ふみを おこうりと あんぢうを すくむ。  
めくらこの ことと かみの あそとの めだと ありと ありーす。 あん  
ぢう これよ まくばー。 13 ほびろん まある いと あわの あんぢうと とゆよ

えト おれ うる きやうぐの わあび こぐ あまると あんぢうよ よろ  
ーく ゆうす。 14 あんぢう ありの くちうけを ゆりと さぐひよ あり  
きり せよ。 ねぐそくへ 無毛 きり毛とよ あら とくろの あんぢう  
すぐそもの もの おがやう あそん ことを。 あめん。

# 家

おふやくせりあよ、べてろなりのあ

きりをのあゆぐあるあしやおせんべてら、それとの  
きれどひとしくうつときおふくうとえくるゆのどゆふあみを  
おふよよりてめぐまとおぎやうのあんぢよあせんことを。  
おのれのさうととくをゆりてきれどをまねまくらかきを  
きれどおふよよりてそのおふりきりのちとあんづんじよぞう  
するゆれをことごとくきれどよえせしめさまへり。あくその  
さうととくよよりてゆりとゆねうひあるうりとまやうをくを  
きれどよあくへり。そんあんぢづけこれよよりてよのようの  
くされとのうれてかみのせりへつよあげうるゆのとあくらくめ  
あり。そのゆゑよあんぢとさふせりをつぶしてあるぢのあふ  
うよとくをくもくよ、とくよちーき、ちーきよひりくめ、ひら

くめよ くらへあひび・さへーのびよ あふれん・・あふれんふよ きやう  
ざりの あへーし・きやうざりの あへーしよ ありと うもんよ。 8 ゆー  
されとの むれ あふぢとの うちよ ありと ゆうり あふべ されとの  
まき 痴見 きりもとを あ用 うく ある ことよ つりを あふぢとの  
うり やう うれと さる ゆのと あると さくへん。 9 されど されとを  
ゆうざる ものと あふか つみの まくめを せすれと とあくまること  
を えぎる めぐと あり。 10 この ゆゑよ きやうざりよ、 あふぢとの  
めせねくと えじあれするとと めくわする やう「よきねこあひ  
を ものと 一 あすあす そばむづー。 あふぢと もー されとの ことを  
おこあそべ さくよ つまびく とこう あー。 11 さて されとの まき  
あるすくひめー 痴見 きりもとの めぎりあり みくまうりることを  
おゆうよ ゆうされん。

12 この ゆゑよ あふぢと されとの ことを あり やう すくまうけ  
かる ところの あととよ さざめたりと うども され あふぢとを  
一 て つねよ されとの ことを おおへーめん ことを わけす。 13 され この あく

やよ おる あひど あふぢと おがゆる やう あふぢとを すくわる  
ことわ ようとふと おゆふ。 14 そく されとの まき まき きりもとの  
せれよ ちめーくと さとく され まくやと ゆぐ うとく ちうまよ  
あふを あねば あり。 15 あく され よを さりと のちよ あふぢと  
して つねよ されとの ことを おおへーめん ことを つとせ。 16 されと  
あふぢとよ されとの まき 痴見 きりもとの ちうとと その あトと  
さあふことを つけへー さくまびー まく まく けく もはぐまくよ あふ  
ゲの トよ あトキ、 やうと その おわひ ある えりうと まのあひり  
ミーよ おる あり。 17 され ちく ある かと おり おおれと さうえを  
うくろ とき やくの どとま こゑ うのとま えりうよ おり されよ  
のをとて いへり、 これ こだ ありする むすぶ、 こだ ようとぶ ところ  
のもの ありと。 18 これ てん おりの こゑ あり、 これと ようとぶ  
ともよ あふぢと やすよ ありと これ きけり。 19 この わり とねじよ  
すけの かへー ある ことを あり。 あふぢと よあけ あで あくまく  
ド やう あふぢとの こくうよ いづる あで うとまこと ところよ あると

一びの どどき その よけんを わへりまわば ようる ベー。<sup>20</sup> あう  
せの あふの よけんを すべと ひとの こもろを もりと とくよ あト  
きる うとを ある ベー。<sup>21</sup> そん よけんに けいしと ひとの こもろ  
ありの がす・<sup>22</sup> かみの まくらひと まくら みくまよ やふと  
りくる もの あれば あり。

**第二章** されど ゆう一たもの うちよりうそりの よけんへや あり。  
ゆく あんちとの うちおも うつむりの もーやす あとう。 われどん  
ひきうよ やうびよ りくまの あゆーうと わのまー めう わのねを  
あぐあぐする きみを もりあそと まぐりと すみやり ある やうびを  
とらべー。 わらうの もの その まくと ある えらよ あくびとん、  
これよ おのと あそとの まちそーとる ベー。<sup>23</sup> われどん むき行りの  
さめよ やぎれる ことを もりて あんちと ありまうけを あそぶと  
わのす。 むうー おりのれどよ まくめとくと まくめとくと おそうとド、  
その わうびと ねむと ざる。 あり。 <sup>24</sup> それ かまくつみを もうーとる  
てんの つらひ ねむと おしよすーと これと ちこくよ あけられ、

あうま やまよ 口づー これと あゆり くまーめと まくまの とくと  
あちーうかくへり。 <sup>25</sup> あく あくまよと おしよすーと あーふとん ある  
ひとの よよ やうびと くさせり。 <sup>26</sup> そん かうーき まくらと のぐつまく  
くら おと あらわふと とくよ あゆり くまくへり。 <sup>27</sup> あく そざむと  
ごめの あらを やうびよ さざめて のらの あーふとん ある ゆのと  
ゆだまと あさん まめよ これと やまくと まひと あせり。 <sup>28</sup> されど ねず  
くよ あくびと ざる。 ゆのと うなづくの ねとあひの まめよ あやむ  
とくうの かうーき とを すくひ うなづく。 <sup>29</sup> その かうーき ひとと  
われと の うよ をり まくまーと ひど きの あまくの ねとあひと  
もりて ねのれの かうーき うなづくと うなづく。 <sup>30</sup> まくら あふとん  
ふうき ゆのと あどとー おり すくひ うなづく ことと かうーき ひとと  
ゆの、 とけと あくまの けげれ ある うよ あくまくと あゆと  
ゆうけんと うりやーむ ゆのと まくま うよ これと まくまの  
ひまでも あある うとと ありうある。 <sup>31</sup> この とくぐとく まくまうり あき  
うぐまく ある ゆのとー つうまくと うーと おそれす。

11 それらのつらひにちうどとけんをもひてのれどよそにあねば  
 12 おなじあねどもまたのあくよつらさじをそしりてうの  
 13 さふることあり。されどこのひとびとへとれてわろがまき  
 14 さめようあれどもとこうのせりへくはまほんあきけむれしきとき  
 15 ものよりをそのあたざるとこうのこととそしり、あきのむくひを  
 16 うけておのれのけぐれは行うびん。されどいおどりのひをその  
 17 一ミとし、あんぢととよよあくまひをそしりとまおことあり  
 18 きすとありてそのあくひをさめーまとあり。そのめあんりん  
 19 あをそらへとつみよりやあく、あくこころのゆくうとざるものを  
 20 あどぞす。そのこくうんむきがりよあれどこくのあどぞとあり。  
 21 ふだーま うちをもあれ ああひよりりそほそるのむすおする  
 22 うち あきのむくひを わいへるばりむの うちよあくぐへり。  
 23 われおわねのあーき ことのさめよとぐめじねり、すあそら  
 24 ねかーのけゆれ あんけんの うゑを わいそめくらりよげんしやの  
 25 きちぐれをとづめたり。このともぐとく うげあまのりど、おな

うせよおもむくところのきりあり。うえまやまかれのさめよ  
 「ようづよあでゆ」のさる。18 わねどく うがりあるところことをを  
 りひ、ゆう あくうりの あくとりふとくを もりて、かの あくひよ  
 19 あゆむひとひとの うちよりのぐれども ものを りざあふあり。  
 われどそのものどもよあゆうをあくあくとりへども うげうぐれ  
 20 けぐれのあくべあり。それひとくわよ わくまくとあその ゆめを  
 あくべとあねばあり。ひとゆーき あるすくひゆー名をきり  
 21 きとをあくよりよのけぐれをのぐれそののうちあるうねよあとそ  
 れてうちのくわよ うがりある。ところの せんま おまくを  
 22 きくよあくぐれがあり。これあくとのこととせ、するまちりぬれ  
 23 おのれの そまくらむれよ うぐり、あくをれくるあくらどうよこう  
 24 うとこうよのくわりと うくよ あくへり。  
 25 あくする とよよ、それりお うの うの あくをあくぢ

よかきねくり。あるぢうをとて草と見よけふ。やうらのよけふ  
する。ことくあるぢうよおこうれなる。あしやうちのつまく  
とくのき。あるすみのめの。お草を。おがくしめん。きめま  
されこのあこうのあそよ。おれ。あらうと。もけま  
してこれをおもと。お。あらこれをおれ。をもりのこころよ。あき  
ける。あきけりて。ききり。おのれの。よろよ。あるぢひ。あのみそ  
りそえ。、やれ。ききり。おあふとの。やうそくい。りばくよ。あきや。  
せんぞきのねむり。ひ。ありこの。め。よ。あるぢひ。め。りび。よ。くの  
むく。かみの。こと。よ。あり。て。てん。あり。ある。き。げ。あり。り。く  
しきよ。くの。ち。ある。こと。め。れ。よ。よ。れ。て。そ。の。むく。の  
せらり。く。く。よ。お。れ。れ。て。わ。う。び。く。る。こと。を。あ。う。を。わ。り。せ。キ。  
されど。の。さ。れ。と。ち。か。も。よ。や。う。る。く。く。め。よ。あ。う。れ。れ。、さ。を。き  
ね。う。び。か。し。ん。じ。ん。あ。る。ひ。と。の。わ。う。び。の。ひ。あ。で。か。み。の。こ。と。を。よ  
す。の。と。き。く。そ。う。る。あ。り。有。り。ま。る。あ。り。

ありするところ、あるが、そのひとつとするとどちらより  
多くあらざるべからず。まさにやうやくとてぐまよおを一と  
あく、すぐらのものゝうちあらためりうへんこととやりて  
あるが、をあらびくおこなふるあり。<sup>10</sup> あらわどゆきみのひらめす  
ひとのどとくはきふれん。そのときてかくもけつきひらめす  
ゆゑとなり、もとのわれらゆゑるあつたをゆゑてとけ、ちと  
そのうちあるこせんとあらざれん。

11 やうのどとくこれとのおれどもやがくとあらばあるが、  
かみのひ、すゑをちてかくもくとやあれゆとのもれいやけと  
ともらひのきふれとのぞと <sup>12</sup> やうひひくよあらひきふれねと  
ありとあらざるをあすることよつてをあるが、りうあるゆの  
あるづきや。<sup>13</sup> やくゆゆとあられどもそのやうをくよあらざる  
てきだーサのすむところあるあらわしきてかくとあらざる

○二べてるどり三吉やう

千二十二

のぞむあり。ほこのゆゑよありするともよ、あんちとこれとの  
ことをのぞみさればあこあくまをあくかみのあくよおざやうよ  
あととれんことをつとめよ。ゆう已經とのきみのさへーのびれ  
すくひのゆめとねあへ。ほこれとのありするきみうだりはうるも  
ウタようおもりくるちゑよおもだりひとあんちとよゆくのじとき  
こととせうおくれり。<sup>16</sup>あるそのすゞとのふみよゆこれとの  
こととせうおくれり。そのふみのうちよんけーがくきことありと  
むぐくあるゆくうじぎるひとひわうのせのもととこ下うくる  
ひとくそのゆみをこ下づけておのれのやうびよりくら。  
<sup>17</sup>このゆゑよ、ありするともよ、あんちとれあくうトメこれと  
ありうねばおきよあくうむきらゆのくあくひよひうれとある  
じとゆめうきをあくうよりおらざるやうつまーみて<sup>18</sup>これとの  
まきあるすくひぬくゑをきりきとめぐみとせれをあることよ  
ますおすすくめ。えのううれのむよきーそりあよりゆぎりあき  
あよりくうれ・あめん。

あり。されよゆううだーきことをおこあをすあるきやうだりと  
ありせざるもわんきあかとありよあとす。<sup>11</sup>そんあんちとぐ  
べーとのことあればあり。<sup>12</sup>あるすよぞくするゆかふーとその  
きやうだりとこうーくるめいんよあくふありれ。のれとこうせ  
ーへあるゆゑぞや。おのれのおこあひあーくーときやうだりの  
あくひとゆあやーむことありれ。  
<sup>14</sup>されよゆうきやうだりをありするよよりをあよりいのちよう  
うとゆれどある。「きやうだりと」ありせざるもわんきよとどす  
る。<sup>15</sup>されよゆゑきやうだりとあくひもわんひととこうすゆの  
あり。すゞひとつこうすゆのひゆぎりあきりめちそのうちよ  
とどあることあーとあんちとある。<sup>16</sup>きみんされとのゆめよりの  
ちをすくあへり、されとこれよりてありとりふことをおれ  
り。されよゆうきやうだりのゆめよりのひをすくべきあり。<sup>17</sup>され

おもよのあんざいをもくるものきやうざいのとが一筆をもて  
あられをとらかべりうをかみをありするのありそのうちよ  
とどあともや。<sup>18</sup> もうまーきあどもよ、むれどことばあるひもあふを  
ゆりてありするるとあくおらあひとまくしをもりてありすべし。  
<sup>19</sup> これよよりてむれどもあことありのものあることを見る、  
めうむれとのこもろをかみのあくよやすらむべし。<sup>20</sup> むれとの  
こもろむれとせむるともかみのむれどものこもろよりおわひ  
あるものよしてすべそのうとをありとす。 <sup>21</sup> わりするとよよ、  
むれどもむれとせむるともかみのあくよおをるし  
とどろあし。<sup>22</sup> あるああくてもむれどもとむるところのむれ  
むれよりうく。 <sup>23</sup> むれとそのねだりをまわりてそのあくよ  
ようこむろこととねくあくよありてあり。 <sup>24</sup> むれのねだり  
られあり、すゑをちむれとそのむすお鳥をせりもとのあをあふト  
あるむれのむれとよさげけくまひーねだりのどとくあひくぐひ  
よありすべきことあり。<sup>25</sup> かみのねだりをあるものむれよ

とどある、むれのそのものよとどある。 <sup>26</sup> むれとむれとむれとの  
うちよとどあることをあらむむれとよとおどりくるみくよよ  
あるあり。

第四

ありするとよ、とすとことどとくらふるするあられ、  
くらそのくまにかとありあらりのあやとこもろむべし。そへ  
おわくのかせあげるやよりでむれがあり。 <sup>27</sup> 無をまりもとを  
あり。 <sup>28</sup> これよよりてあんぢとかみのみくすとあるべー。 <sup>29</sup> すべと  
名をあくさのよおりとまくするものとりひあととまくするうおん  
かとよりよあとす、これきりもとよさくとふものきやうざいと  
あんぢとくまーとくのくまあり、りよすぐよよをる。  
めぐり。そへあんぢとのうちよをるものよよをるものより  
おわくあればあり。 <sup>30</sup> むれとよよりあり、ゆあよよのうと  
とく、よへむれととく。 <sup>31</sup> むれどもかとよりあり、かとを

あるものに カねどを まく。かとよりよ あくさる ものに カねどを  
きりす。されよ よりて カねど あるとの さまと あるひの さまとを  
あるあり。

「ありするともよ、カねど あひ さげひ は ありすべし、そん ありら  
かと よりあり。すべど ありする ものに カと より うされ、やら  
かと あるものあり。」ありせざる ものに カと を あらぞ。かと  
あり あれば あり。」かと その うと さあくる ひとりおとよよつ  
そー カねど そーと やれよ よりそ りのちを えきーむ。ことよ わりそ  
かと の あり カねどよ あともれり。」<sup>10</sup> カねど カと を ありせーよ  
あとも、かと カねどを あひー あく その むすもと つうもーと カね  
ど の つみの ためよ あくめの そあへ ものと あせー あり。これ す  
も ありあり。

「<sup>11</sup> ありするともよ、かと めくの だとく カねどを ありト さあひ  
されば カねど も あひ さうひよ ありす べきあり。」<sup>12</sup> りあさ やうそ  
かとを そー ゆの あー。」<sup>13</sup> カねど ゆー あひ さげひ は ありせば カと

カねど の うちよ とく あり さあひ、あく カねど ありするの あり  
カねど の うちよ ありふく ある。<sup>10</sup> カね カねどよ その みく おを  
あることを カねどら ある。<sup>14</sup> ちと その むすもと つうもーと よの  
すくひぬーと あせり、カねど これを そそり そその あらーと あす  
あり。<sup>15</sup> カねど も も あそび そ カと の むすも ありと りひ あともす  
ものに カと カねよ とく ある、やれゆ やみよ とく ある。<sup>16</sup> カねど の  
さめよ カと の ゆち も あそぶる ありハ カねど これを ありて ある  
せり。かと ありあり。ありよ とく ある ものに カと よ とく ある、  
かと も その ゆのよ とく ある。<sup>17</sup> されよ よりて あり カねど の うち  
よ あく さくを そそぎ キの ひよ カねど そーと わをれ あうト  
」<sup>18</sup> ありよハ わをれ あー、まの まき ありハ わをれ の ぞく。そん  
わをれ もハ そーと あり、おをく ものハ ありよ あく まの まうじゆ。  
」<sup>19</sup> カねド「かとを」ありすく やれ あづ カねどを あひー あれば あり。

されり も一 されり カミと ありすと いひて その まやうだりを  
あくお代 されりの まりびと あり、 その まる ところの まやうだりを  
あらせざる ものへ いまだ せざる ところの カミと ありする こと  
あらせざる。 かみと ありする ものへ まやうだりをも ありす べ  
あらせざる。 21 かみと ありする ものへ まやうだりをも ありす べ  
とれ されり されり あり うけざる 事無 て あり。

第五章 されゆくも多きを きりせとありと おんむる ものと か  
おりうめくらあり。されゆくも うけものと あるする ゆかに けれ  
おりうめくらるものと あるするあり。されゆくからと ありと そ  
そのおまじと あると ば されよ ありと されゆくからと か  
ありする ことを ある。されゆくからと おまじと あると され  
を ありする あり。その おまじと いふらと す。そり すばと か  
ありうめくら ものと あると ば あり。よみ から ものと され  
らねどの あふらう あり。よみ からひとと おまじと かの むすびと  
ある ある ものと あふらう して されゆく。おまじと かの むすびと  
もと みくら ある よりと きく れる もの あり。されゆくのと あふらう

あり。みくまんまことあれどあり。・あうーとさうるゆめりやうす  
すをもちみづかとさうべとちあり。・あうーとさうるゆめりやうす  
すを。・さねとゆーひとのあうーをうくるあうべあしてかみの  
あうーにこれよりおやひあり。そのあうーにかみらゆのれの  
むすみよつてさうべとあうーをうくるらとあり。・<sup>10</sup> かみの  
せきをゆめりかみをゆくもりものとするあり。そんかみのその  
むすみよつてあうーせーこととあくせきねどあり。・<sup>11</sup> かみの  
已れトヨウギリあきりのちをさうけ、さあふ、このゆのちのその  
むすみよあり、これそのあうーあり。・<sup>12</sup> そのむすみをうくるゆめ  
みりのちあり、かみのむすみをうけるゆめりのちあることと  
あうーめんゆめあり。・<sup>14</sup> すぐて已れトカミのむねよのゆふらと  
あうーめんゆめあり。

もとめあがむれ已れトをきく。され已れトのれよむり  
ひてあつてある事とどうあり。15已れトモークヒタルトとどうを  
のねグモムモアムラトとを名トベ已れトガのれよもとめークヒタル  
うること多々ある。

16 されり も一 その あゆうやうの あゆうやうにせらるる つみを  
今を さば われの さめよりのりを あよりひかへらる つみを さうす  
ゆめよりのちを えます ベー。あよりかの つみ あり、これこの  
つみの さめよりのる ベーとります。17 さばーうにせらる ことへ とみ  
つみ あり。さばーあぐト あよりひかへらる つみ あら あり。

すがをかきよりうなれするゆめへとてはくらむ。18  
已れどもある。かきよりうなれするゆめへとてはくらむ。  
あるゆのあーきゆのゆれよあるくことをせ年。19 已れどもかきよ  
つきゆれよあるくゆのよふくすることを已れどもある。20 やく  
かきのむすおきなりて已れどもあるとのものを見るやうに已れ  
トよさとりをくねり一ことある。已れどもまたとのゆめよ



おおやせのよよはねがりづらのよ

さう一とこう、されどめをもきめをとめても  
ともう、下までさまでりーとこうのものとことをあるぢよつぐ。  
そのりめちあとをれてされしこれをさーよあり、ゆとちとと  
とゆありーとこうのゆぎりあまりのちすゑをちされしよあと  
それするものとことをあらーとてあるぢよ名トーむ。されと  
ミーとこうきーとこうをあるぢよつぐよりをあるぢよ  
されと名トーむあとえ、されとんちうとそのむすお名をきり  
きとよあくーむのあり。されしこのあをゆきおくりて  
されとのようしがをさかーめふとす。

あり、するをちからまへひらりあへそすこへもうじきところあり。ゆゑにせよとめねとあはれ。

うべこれののそりよーて あこととおとあるかま あくま  
のれりひらりはあるごとく されじゆひらりはあるうだ あらふだ  
ひよあたーむことをえめり そのもすお魚生のもすぐものつと  
おり されじをえきよむるあり。 ゆー されじ つと あーと ひもぐ  
きくわ あきゆくあり。 あこと されじのうちよあとす。 されじと  
されじつとをきなけ一あべのれり あことあるあくまびーの ゆー  
あれば されじのつとをゆるーのり されじをゆちもろのあぎより  
きよめ こあせん。 ゆー されじ つとをもうへる こと あーと  
りとで これ かみと りのそりゆのとするあり。 れのことをされ  
とのうちよあとす。

**第二章** 己が名づけのあどもよ、あんぢうつみをそらはぐるやう  
されこれとのことをあんぢうよゆきおくる。されりゆーつみと  
そらさくちとのあくよされとのとりあへてあるふぢーきもの  
すゑもちゑをやりむるあり。されりされとのつみのまよ  
あどめのそあへゆのとあれり。さゞされとのつみのまめのそ

あらすじあるせうのやうのつみのよめあり。ヨコねじも一キミの  
おまくをあゆうばるねよりてゆれを名ふとモヅラシテナリ。ヨコ  
ねじゆれを名ふとソレをそのおまくをあゆうざるゆめん  
これいりそりびとあり、ゆれのうちよあくとあり。ヨコねじをの  
みことをあゆるゆめんかきをあくすものありあくとよその  
うちよあくとあれり。ヨコねじよりてヨコねじゆれはあることを  
もげりト名る。ヨコねじゆれを名ふとソレをゆめんゆれがあゆミー  
ととくもげりトゆあゆむづきあり。

お寺へもあらず、もとめありあるぢとよあるところの かみま  
お寺てあり。この かみま お寺てりあるぢとよあるところの かみま  
ことをあり。おねど らぐ あるぢとよ みき おくるところある  
あらじとせ お寺てあり。この ことば めねよ おうじゆあるぢとよ  
おりても まととあり。そん うとせん すぎで いお あらとの ひう  
りやうやけだあり。おれへ ひうりよ おとと ひひ あぢとせやう

10 さやうがりとあるむものいはあやうせよをるあり。11 さやうがりとあるするものいひうりよとどする、そのうちよつあげりする  
ゆれあー。12 されどきやうがりとあるむものいくすよをりくと  
きよあるそそりげくへゆくをあとす。うじきそのめをめくとよ  
あうればあり。

12 あくま一生あどよよ、これあんぢよあみをめきおくまくあん  
ぢよのつとめれのみあよよりてゆまきれくねばあり。13 ちうど  
もよ、これあんぢよあみをおくまくあんぢよとめめよりの  
ゆのをあらよおいてあり。14 きうき ものじよよ、これあんぢよ  
あみをおくまくあんぢよあくまをおくまくよよおいてあり。  
こどりよ、これあんぢよあみをおくまくあんぢよあくまを  
あらよおいてあり。15 ちうどよよ、これあんぢよあみをおく  
まくあるよよおいてあり。16 あんぢよ、これあんぢよあみをおく  
まくあるよよ、これあんぢよあみをおくまくあるよよおいて  
あるよよとめめよりのゆのをあらよよおいてあり。17 きう  
き あんぢよ、これあんぢよあみをおくまくあんぢよつよき  
ゆのじよよ、これあんぢよあみをおくまくあんぢよつよき  
ゆのじよよとめめよりのゆのじよよおいてあるよよあるよよ

15 ちうき ものよめくらまよよおいてあり。16 この ゆあよよ  
あうよあるものがたりをあるするあうれ。ひと ゆーよと  
をありするのありそのうちよあとす。17 あよある ゆれすあをち  
ふくまくのよく、めのよく、くじーのねどりくらまちよ  
あとす。よありあり。18 ひと その ようとく すがまくる ゆれあり。  
されどかどの むねをおくまく むのいめぎりあくあぐとくん。  
18 あぐとくんよ、いあんすゑのとよあり、きりせとよさくとふ  
ゆの おなくおとれり。これよおいて されと りあんすゑのとよ  
ありとある。19 されと されと のうち あり りぞきり。されど され  
とよなくする ゆれよあとす。ゆー されとよなくする ゆのあと  
ゆのよ されととある づき あり。されと りぞきり すべくの  
よのよ ことととくわ されとよ ぞくせきる ことを あとせさん さめ  
あり。

20 あんぢよ すくよ まくまく ゆの あり あとと そくぐれり、

うよ、ちうの已れトヨコホシ一ツノミークル りうをうり  
あトナリ。このゆゑよおれ已れトモアレあるそのあど  
きり、のちりうちあるものよあとをやつよどあとをれや、されど  
かれあとをれあばかれのひとくあとえことある。そん已れト

よれるこののぞみあるゆわへ やれの せきよさげ どとくおわねを  
きあくす。されゆくもつみをもうす ゆわへ ねがそよそゆくあり、  
つみとく おせらよそむくことあり。これとのつみとのぞみより  
よきこのあともねーこととあるぢとある。のれよひつみあり。  
されゆく やれよとくあるゆわへつみをもうす。されゆくも  
つみをもうす ゆわへ りよど やれと とく、ある やれと あやさる  
あり。

7 あくまーき あどよよ、ひとよあぎむらふく あうれ。あくまーき こと  
を せよと あふ ゆわへ はだーき ひとあり、かみの はだーき どとく。  
8 つみと きうす ゆわへ ざくま あり あり。ざくま せじめ あり  
つみを きうす。かみの むすみの あともねーへ ざくまの こせを やろ  
がさん さめ あり。されゆく カミよ よりと うおれ うる ゆわへ  
つみを きうす、かみの うね その うらよ とくおねば あり。ある  
つみと きうす こと あくす。かみよ よりと うおれ うれ あり。  
10 カみの あどよよと ざんまの あどよよとく これよ ありと あせじう

あり、すみよちそめ ゆすお名を きりあすよ あり。やれよ あくとの  
かと ある やぎり あきりのちあり。  
21 あくまーき あどよよ、あくまよとく うじとく あくす とく うじとく  
とく あくす。



おふやくせのあす よはねだりあのあ

一ありある已れえどもゆうむりくるくりあとその  
あどあどよふとおくる。已れあととよあんぢとを  
ありす、さゞ已れのとあどすすべをあことを見るものもあんぢ  
とをあります。已れ已れととどりありゆうめぎりあく已れとと  
ともあるところのあことよするあり。ちうぢとねあじちうぢの  
むすおゑをきりきとおりひぐるめぐまとあそねまとねづやうい  
あどととありをゆいて已れとととよあるべー。

<sup>4</sup>已れととけーととちのちうのねまとのどとく已れある  
ちのあどあとけあことよ。おりてあゆむをうそおわひよようと  
びり。ぐりあよ、已れあんぢよあくととけおまくとめきおくる  
よあじよ、もとめよりゆくととちのねまとすあそち已れと  
あひふげひよあらすることをあんぢよねづかあり。已れと  
かれのねまとよあくとくをあゆむられありあり、あんぢとけ

ミトめよりきくととくあんぢとありよあゆむべきことと  
これそのねまとあり。そいねあらのあどとすものよよりくと  
ゑをきりきとあくとよおひときくとくあくることをりな  
りばあり。已れすあそちあどとすもの、きりきとよさらとよ  
ものあり。

<sup>8</sup>あんぢとけーとけーととちのうとをむあーくせ  
一とまのくまむくひをえんきめよしきとつとーめよ。すぐて  
かりきとのをーくよとどきと金ーとひととうちびくゆめんかと  
をうけーゆのよあとく、そのをーくよとどきあるゆめんられ  
とむすあととうけーゆのあり。

<sup>10</sup>ひとととーこのをーくをゆうすーとあんぢよおとくとく  
あんぢとのりくようくるあられ、これよやすうれとりふあられ。  
<sup>11</sup>そんこねよやすうれとりふゆめんそのあーきねとあひよあ  
られどあり。已れあやあんぢよゆきおくることあすとあり、  
されどゆまとすみをゆいてゆくこととこのあす、さゞ已れと

○二一 よはね

千四十二

よろしごを 三つまん さめよ あんぢよ りくりて あひ ふうびよ  
のやを ゆりへそ やくまん ことそ のだむ。  
<sup>13</sup> あんぢの えとあれまる りゆとの あどかよ あんぢよ ようく  
もきす。



あんぢよ よはね ざくらの あみ

しより あら めの、ありする  
ものて ありする とくうの めのよ あみと おくる。  
ありする とくよ、され あんぢの さなの さうん ある ひとく あん  
ぢぎ すぐその ことよ つりて さうんよ あくすと やう あんぢん こと  
をねぐふ。さやうざくらの まさら そあんぢの あくと すあそち  
あんぢぎ あくとよ あゆむ ことを あらへせ ゆゑよ され そあ  
そぞよろしごり。さやう あざくらの まことを あゆむ ことを まく より  
ねあひある よろしごれ されよ あー。

ありする とくよ、さやうざくらの ある さびとよ あくと あんぢ  
すべて おこみふ とくらへ ちうーんのこと あり。されと まやう  
くさりの まくよ あんぢの ありを あくーせり。あんぢ ゆー かまよ  
のあくと おれとを さびよ おれと ばよまと あす あり。されと  
まきの あの まめよ いぐり ト えより ああを ゆうけ ざれ あり。

○三 よはね

千四十三

## ○三よはね

<sup>8</sup>このゆゑよされどゆゑのひとをさすくべ、さすけば  
されどもあらとのゆゑよとゆよもさくらものとあらん。  
<sup>9</sup>されどもあらとゆゑうるるよおくれり、されどそのうち  
ゆゑへとさくらんことをこのむでおてれ庵されどとうけす。<sup>10</sup>これ  
よりてされどりくらばのれぢおとあるふところをおもひりよ  
せん。さればあーきこととどめりとされどのことをそりゆう  
これをゆゑてさねりとせずしてまげうとまやううりをうけす、  
あるうけんとありするものをもまんとされとまやううりを  
おりのぞく。

<sup>11</sup>ありするとゆゑ、あーきよあらうとあられ、よあよあらん。  
よあをねらあふゆめいからとおりあり、あーきをねらあふゆめい  
ゆめいをみだるあり。<sup>12</sup>でめでりおれすべどひとのとあらと  
あらとよよりてあらーせられたり。されどもあらーとあす、あんぢ  
されどのあらーんあらとありとある。

<sup>13</sup>されどもあらうとあらうとあるとあり、されどすみと

あらとゆゑてゆくことをこのゆゑ、<sup>14</sup>すみやうよあんぢよ  
あんをあらうとゆゑのうとむらんをゆくらんことをのぞむ。  
<sup>15</sup>ねぐもくら、あんぢよおざやうあらんことを。ともぎちある  
ぢよううーくもうす。あんぢよれよゆもりともぎちおのゆめい  
あをよびてあらーくもうすべ」。



ちんやくせんをよゆどのふと  
すきりすとの一ゆべ、やこぶのきやうだいゆどめー  
をかうありふるものもあはちちくがふりくくー  
まれあく多きりすとふまむらるゝものふふとを  
ねぐらくわあれとおざやうとりのくーとのあん  
ねぐら。ねぐらくわあれとおざやうとりのくーとのあん  
ねぐら。

ぢぢあまさえことを。

<sup>3</sup>ありするともよ、されたんせいをつくりてそれらのりつせん  
のまくひのことをあんぢぢあかきおくらんとするときひと  
さびきよきゆのどもおたまなりくるおんかうのそーへをひる  
すらふろんトあんぢぢをはげまーとこれをかきおくることを  
わんえうありとおゆへり。<sup>4</sup>そんあるひとトすあんちむり  
ありかのけいばくふあらかトめさせめられふるものひをうふ  
おのびりりたれをあり。かれらんおんドんあきゆのふーとされ  
らのかとのめぐとをりんらんおかんあふひとりのあゆドん  
れらのきと名すきりすとをりあめり。

あんぢぢうりゆうとるとうのふとをされあんぢぢよおゆ  
しめふとあゆすすあをもちまことえおぶとのちよりたまとすくひ  
りぢーそのちよおんせざるゆのをやうがせーこと。<sup>5</sup>ゆうねの  
ねのりやうがふとあゆとすーとそのすむとどうとをあれふる  
つうひさうをきとをめりあきくさりをゆにておやひあるひの  
さをきまでやみのあくよあゆりくあくくるふとあり。<sup>6</sup>ゆうの  
さとくそどむとどおらねあびそめあそりのあらもおあトくりん  
トんをねとあひゆうことあるまとあドモリをあせーよゆにて  
ゆめもるともぐともゆくのどとくをけげ、あそりをゆうふ  
ゆぎりあきゆのけりゆうをうけてゆうとくをうれふり。<sup>7</sup>この  
ゆめもるともぐともゆくのどとくをけげ、あそりをゆうふ  
ゆぎりあきゆのけりゆうをうけるあり。<sup>8</sup>それちふのつうひのきとみかえふん  
あんそそりをゆりてゆれをつませ、ふだきとあんぢとせめ  
さあをふとりくり。<sup>9</sup>されどこのひとびとれおのれのふうきる  
ところのことそそり、ちゑあきけゆれとどくうまねうける

あるあるところの ことへ それとの ことよ おりと みがうどを  
けぐすあり。

<sup>11</sup> そのひとつとくに きびとある める、のれどん ひらんの うちと  
あるき、りの くめよ ぼく むの あらひよ そり ある こらの もほんよ  
おりと あらぶ。<sup>12</sup> のれどん あらぢとの りのくーみの あらあひの  
りとあり、もどうること あく あらぢと とよよ せふよ つかと  
えうとと やへあふ。あこのせよ おもむと ところの あめあめの  
くめ、みのあまあまのき、あくびあくとねより ゆうふく めの、  
<sup>13</sup> われの そぢと そく ところの うみの ちげーき あこ、さあふあ  
わく。されが くめよ くじき やまと ぎりあきよ より あく あで  
うくをくくら。

<sup>14</sup> あだむ より あやうの あそんはのくも その とあぐの こと  
を あげんして りくり、まよ、まよ すぐの ゆのよ さをまを おこ  
あふくめ、<sup>15</sup> やう すぐを あーふドん ある ゆかく あーふドんを  
ゆうて きりーくら あーふドんの きびと あーふドん ある つみび

との われとそーりくら すぐの もけーき ことの あくーと あす  
くめよ その あらあらの まよま ゆのと ともよ くぢり あくかと。  
<sup>16</sup> ここのひとびとくつがやく もの、くる ことを あらざる ゆのよーと  
おのれの くめよ あらざる あゆむ。その くらら あらる こととを  
りひ、りの くめよ ひとよ つづく ゆのあり。

<sup>17</sup> ありする とよよ、あらぢと せねとの まよ あも きりきとの あ  
ける もの おこりと <sup>18</sup> われの あーふドん ある ゆくよ あくうぐひと  
あらうふと あらぢとよ やくりー こととを おがくよ。<sup>19</sup> ここのひと  
びとく まうま ゆのよーと あくうりよ がくす、みくよを ゆくざる  
きのき あらううの どぐりの うへよ きびとを まくと、まよき  
みくよよ ありて りめり、<sup>20</sup> やう せねとの まよ あも きりきとの  
せぎり あきりのちの めぐらを のぞみて まくうとを かみの りくく  
くの うちよ あもあ ベト。<sup>21</sup> あらぢと やねとの うちろをする

ところのあるひととあるひとと、あるひとを心のありありすらり  
りさせ、<sup>23</sup>あるひとよりおそれをやりてあるひとをやどさせ。  
ふくさのよよりておそれをきめられこれをあくまべー。  
<sup>24</sup>あんぢいをあまりとおらざりしめあんぢうをととくせづま  
あくよろとびとゆりておのれのえりうのまくよくくしめうる  
ものすみうち已れとのすくひめーあるひとりのかと、<sup>25</sup>めねよ  
已れとのまこと意をきりまどよおにてさうえ、さりとせ、ちうり、  
けふるよのあくもりあくもりうげよあぐもきするあり。あめん。



おふゆくせんじよ、あくもーくらるよげん

れゑをきりまどのあくもー、すみうちすみゆうよきく  
るべきことをおのれのゑゆうどもよおめすくめよ  
かまのうねよふやくふとくうのゆれあり。ゑゑそんつうひを  
つらをしてこれをそのゑゆべよはねよあくもーければかれかま  
のことをとゑをきりまどあくーすみうちそのすぐとく  
ちのことよつりをあくーをあせり。このよげんのことをとゑ  
むのとこれとをきりまどそのあくよあくすとくうのことをある  
むのとさくもひあり。そんときちうけれどあり。  
よはね、ああああるあくうのきやうきりよふまとねくら  
ねぐもくら、りまあり、むくーありー、のちらゆあくえもの、おも  
びそのみやのまくよあるあくうのたま、まくまことのゑようと  
あん、あくまぶるものとうちのちやくー、ちのまくまうのまくある  
ゑをまくをとよりあるがくよめぐまとおざやうあくえことを。